村山教育事務所だより
E-NEWS むらやま
第２７８号
発行日：令和８年１月２０日
「E-NEWS むらやま」で検索または 右記二次元コードから。バックナンバーも見ることができます。

教職員が変わる 学校が変わる CSを推進する組織づくり

12 月5日(金)、文部科学省 CS マイスター 旭川市立大学 教授の出口寿久氏と川西町立吉島小学校 校長の田中靖士氏を講師に招き、「第2回地域とともにある学校づくり研修会(兼)社会教育主事有資格教員等研修会」を開催しました。研修Ⅰでは、出口氏からコミュニティ・スクールの仕組みや学校運営協議会の実効性を高めるための方策等について、田中氏から「地域とともにある学校づくり」また「学校を核とした地域づくり」の実現に向けた具体的な取組み等についてお話しいただきました。研修Ⅱでは、村山教育事務所矢作誠社会教育課長のファシリテートのもと、参会者の皆様からいただいた質問や課題を柱に、お二方でトークセッションを行いました。学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員の人員選出のポイントや地域と学校の連携・協働に対する吉島小学校の先生方の思いなど、本音を聞くことができ、参加者の皆様とともに研修会のテーマについて学びを深めることができました。

地域の良さを子どもたちに伝える

子どもたちや学校が抱える課題は、学校だけで解決することはできません。学校・家庭・地域が連携・協働し、社会総がかりで課題を解決していく必要があります。そのためには、課題を学校運営協議会の議題にすることが不可欠です。地域と課題を共有し、それぞれの立場で何ができるか議論を繰り返していくことで、学校と地域の対等な関係が築かれ、地域住民も当事者意識をもって動き出すようになります。コミュニティ・スクールは、地域の未来を担う子どもたちの豊かな成長を支えていくための仕組みです。地域の良さを子どもたちに伝えていくことが、子どもたちの地域愛の醸成につながります。

出口 寿久 氏

子どもたちの元気で地域を幸せに

田中 靖士 氏

吉島小学校は、NPO「きらりよしじまネットワーク」と連携・協働して、学校運営を行っています。地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員が、学校運営協議会と地域学校協働本部どちらにも属しているため、学校運営協議会で出されたアイデアをスムーズに実行に移せていることが、先生方の働き方改革にもつながっています。地域の方の協力により実施できたことは、どんな小さなことでも必ず学校だよりやホームページに掲載し、広く情報発信しています。子どもたちが変わると、学校が変わり、地域も変わっていきます。先生方には、「子どもたちの元気で幸せいっぱいの姿で、地域のみなさんを元気で幸せにしましょう」といつも話しています。

令和7年度 幼保小中接続推進研修

山形県教育センター 講堂
令和7年12月18日(木)

本研修会には、村山管内の幼稚園・認定こども園・保育所、小・中学校の先生方など、約 90 名の方に御参加いただきました。研修では、幼児期に遊びをとおして育まれた資質・能力を、どのように小・中学校での学びにつなぐとよいのかについて、前半は西川小学校の阿部先生から架け橋プログラムの実践発表を、後半は山形大学の野口教授の御講演をお聴きしました。

「幼保小の架け橋プログラム事業」がスタートして４年目となり、村山管内でも接続を意識した取組みが進められています。幼保小中の接続は、子どもの成長を連続的に捉え、よりよい学びの環境を整えるための重要な取組みです。その実現のためには、私たちの「子どもを見取る力量」を高めていかなければなりません。子どもの自立を助け、探究の目を育てていくために、学び続けていきましょう。

実践発表 「架け橋プログラムの実践について」 西川町立西川小学校 教諭 阿部 裕子 氏

キーワードは「安心・発揮・自立」 まず作ってみる、そうしたらやってみる！

１月の保小連絡会は、新入学児童を多方面から見つめ直す場として設定しています。それまでの子どもの学びや育ちを共有し、どのように学びを進めていけばよいかを話し合いながら『架け橋プログラム』を作成します。作ったプログラムは、４月に検証し、加筆・修正します。年長・１年生の担任だけでなく、ＳＳＷや保健師も含めた、様々な立場の人が集まり子どもについて語り合うことで、保育・授業の視点、特別支援の視点、家庭・地域との連携の視点など、多方面から考えることができます。

保育園での学びや育ちを引き継ぐ意識で、「小学校では…」と教えることよりも、子どもと一緒に考えるスタンスを全職員で共通理解することを大切にしながら、『架け橋プログラム』を実践しています。

講 演 「幼児期の遊びを通した育ちと小・中学校の学びとの接続を考える」 山形大学学術研究院 教授 野口 徹 氏

子どもが自分の力で舵取りして、学びを深めていける保育・教育を目指して

幼児期の子どもは、自分の探究心で遊びを舵取りしています。幼児期のやる気に満ちた子どもたちの育ちを、生活科を中心としたスタートカリキュラムを通じていかに引き継いでいくかが重要です。そのために「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を手掛かりに、子どもたちの資質・能力を適切に見取る力を高めましょう。子どもの活動を写真と文字で視覚的に記録したドキュメンテーションも、見取りの手段に最適です。子どもたちを資質・能力の面から適切に把握し、幼児期に育んだ資質・能力を小学校でも発揮できるようにカリキュラムをマネジメントすることで、子どもたちは、「できる！」と自信をもって学びに向かうことができるようになるのです。

幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿 →

野口先生の講演の中で、園や小学校での遊びや学びの写真をもとに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」をとおして子どもの資質・能力を見取る対話型研修を行いました。幼保小中の先生方で校種をこえて語り合うことで、多くの気づきがありました。

子どもの姿を真ん中に、幼保小中の先生方が子どもの育ちについて語り合うことこそ、幼保小中接続の第一歩であると思います。

参加者の声

子どもたちが自己を発揮したり、探究心をもてたりする保育を充実させていきたいです。小学校の先生方との情報交換はとても有意義でした。近隣学校とも、直接対話し、ともに子どもを育てる仲間としてつながっていきたいです。(幼稚園教諭)

幼稚園の先生方と写真をもとに何度も語り合うちに、自分では気づかなかった子どもの資質・能力を発見することができました。幼小連携会議の時期や目的を見直し、幼小の先生が一堂に会して話し合う場の設定など、できることから始めたいです。(小学校教諭)

変化に対応し 未来を切り拓く力を育む学校を創る

令和７年度　学校経営計画指導訪問校の取組み ②

学校経営計画指導訪問は、「学校教育指導の重点」を踏まえ、教育課題・学習指導等について協議を行い、学校教育の一層の充実を図ることを目的に実施しています。訪問させていただいた学校では、明確な経営方針のもと、児童生徒や地域の実態に基づいて教育活動を精選したり、児童生徒に寄り添い、家庭・地域と連携・協働して、安全・安心な風土の醸成を図ったりしながら、多様な学習機会を提供し、一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細かな指導を進めていました。今回は、２つの学校の特色ある取組みを紹介します。

【山形市立高楯中学校】　校長　星川　仁一
訪問日　令和７年７月 23 日（水）

◆ **ふるさとを愛し、未来に向かって明るくたくましく生きる情操豊かな生徒の育成**

○生徒の実態を踏まえ、学校全体で育成を目指す資質･能力を「アウトプット力（自分の言葉で適切にまとめ、自信をもって堂々と発表する力、相手に伝える力）」としている。その力の育成に向け、内発的動機付けや方法、学びの深まりを確認することを大切にしている。

○教職員同士の“対話”を大切にし、学校経営への参画意識を高め、学級数の減少に伴う教育課程の見直しや校務分掌の再編を行っている。校務部長等の主要な役職を若手が担い、それを励まし支える中で OJT を推進している。

【天童市立第一中学校】　校長　鎌田　さとみ
訪問日　令和７年９月 16 日（火）

◆ **英知　活力　気品　～ 自律と尊重の心 ～**

○授業で生徒を育て、授業で教職員の資質･能力を伸ばし、授業で地域や保護者の信頼を高める学校づくりを、校内研究を中核にして進めている。生徒と教師が「良き学び手」の姿を共有し、日々の授業を振り返り、「未来の授業を語る会」を通じてより良い授業を共創している。

○生徒一人一人が悩みや困難を自ら解決できる力を高め、主体的に自己を成長させていけるよう、相談相手や相談内容を生徒の自己決定に委ね、全教職員挙げて教育相談を行っている。

令和７年度　青少年地域活動・ボランティア活動推進事業

ボランティアサークル交流会 in 青年の家

ボランティアサークル「MICAN」、「あすなろ」、「夢憧布」、「風ぐるま」、「nico こえ」のメンバーで企画を考え、実践しました。

12 月 20 日（土）に、県青年の家を会場に、MY ボランティアサークル交流会を行いました。村山地区の５つのボランティアサークルから 28 名が参加しました。情報交換の場では、それぞれのサークルで取り組んできた活動を紹介したり、ボランティア活動をする上での悩みや課題について共有したりしました。午後からは、幼児や児童のいる親子を対象に、各ボランティアサークルが考えた企画を基にクリスマス会を実施しました。今回の経験を活かして、村山地区のボランティア活動をより一層盛り上げてくれることを願っています。

＜参加者の声＞
- サークルで行っているボランティアが異なり、やってみたいボランティアが増えた。様々なボランティアに参加していきたい！
- 他のサークルの活動をくわしく知ることができたため、自分がまだ知らなかった山形のボランティアの可能性を知ることができて勉強になった。また、個人的に悩んでいた幼児とのかかわり方を見て学ぶことができて、ボランティアをする上での悩みなどを解決できるよい交流会だと思った。
- 他のサークルがやってきたことや問題点など知り、「自分たちでもこの企画をやってみたい、こうすればよかったのか…」などと思うことができてとてもよかった。

多様な子どもの読書活動推進事業

恐竜×絵本＝無限大！
読み聞かせと化石作りから広がる大冒険

★子どもが夢中になった恐竜の読書活動推進講座！

11 月９日（日）、山形県立図書館で「恐竜」をテーマにした読書活動推進講座を開催しました。東北文教大学児童文化部の皆さんによる大型絵本の読み聞かせや、アルトサックスやピアノの生演奏で、子どもたちは物語の世界に引き込まれていました。

★化石のレプリカ作りに挑戦！

山形県立博物館の学芸員を講師に迎え、石膏を使った「化石のレプリカ作り」も体験しました。専門的な内容を子どもにわかりやすく説明していただき、参加者から大好評でした。

★お楽しみブースを親子で巡る！

クイズやお絵描き、読み聞かせなどに加え、実際に化石に触ることのできるブースを親子で巡りました。楽しい体験をたくさんしたことで、「図書館にまた来たい」という声が多く寄せられました。

参加した保護者の声
- 子どもたちが飽きないような仕掛けがたくさんあり、終始楽しかったです。子どもが「この図書館また来てみたい！」と言っていました。
- 恐竜のことを知ることのできるたくさんの体験があって、子どもがとても楽しそうで、夢中になっていました！！
- 本物の化石に触れる機会はあまりないので貴重な経験になりました。

令和7年度学校･家庭･地域連携協働推進事業
第2回村山地区家庭教育支援フォーラム

食も心も “おすそわけ”
～持ちつ持たれつで紡ぐ子育ての輪～

10 月 10 日（金）、村山保健所を会場にして、第２回村山地区家庭教育支援フォーラムを開催しました。講師に、かみのやまこども食堂「かえる家」代表 萩生田 充知子 氏、副代表 萩生田 祐司 氏を迎え、地域の中で、地域の子ども・保護者とつながりを支援してきた、これまでの活動についてお話しいただきました。

笑いあり涙ありの心温まるエピソードが盛りだくさんでした。

ペアでもちょっとした意見交流。子どもたちに必要なこととは？

“おしゃべりサロン”では、穏やかな雰囲気で思いを語り合いました。

参加者の声
- 「子どもを大切にすること」と「甘やかして判断をすべて尊重すること」はイコールではないことを改めて感じた。いろいろな子育て、教育がある中で、今回の話は、子どもを育てる多くの人に勇気を与えてくれるものだった。
- 保護者支援、子育て支援について、今、自分の職場では何ができるかをしっかり考えたい。萩生田さんの子どもたち、親への向き合い方、とても素晴らしく参考にさせていただきたい。
- 地域の中に様々な事情を抱える家庭があることは知っていたが、今回の事例で生の現場の声を聞けたことはとても貴重だった。支える側のスタンスも勉強になった。